

第6次入間市総合計画・後期基本計画 中間総括

令和7年7月

企画部 企画課未来共創政策推進室

もくじ

- ◆はじめに

- ◆中間総括

- ・第1段階…計画の全体評価
- ・第2段階…政策評価（アウトカム評価）
- ・第3段階…施策評価（アウトプット評価）

- ◆まとめ

はじめに

平成29年度から令和8年度までを計画期間とする第6次入間市総合計画では、PDCAサイクルに基づき政策・施策の実績と成果を評価し、改善につなげるため次の3段階の評価システムを設けています。

第1段階…計画の全体評価

- ・以下①～③の回答結果に目標値を設定し、市民意識の把握と分析を行うことで、まちづくりの進捗状況を確認。
①「住み良さ」 ②「定住意向」 ③「行政サービスの満足度」
- ・市民意識については、基本計画の3年目と5年目に実施する「市民意識調査」の結果を分析して評価を行います。
※今回は令和6年度に実施した「第14回入間市市民意識調査」の結果を基に評価を行うこととします。

第2段階…政策評価（アウトカム指標）：総合計画が効果的に進捗できているか

- ・基本計画における6つの「章」と、計画期間における行財政運営の方向性としての「計画の実現に向けて」を加えた7つから成り立っており、各章に「節」として配置している政策ごとに計77の成果指標を設定しています。

第3段階…施策評価（アウトプット指標）：各施策・事業が進捗できているか

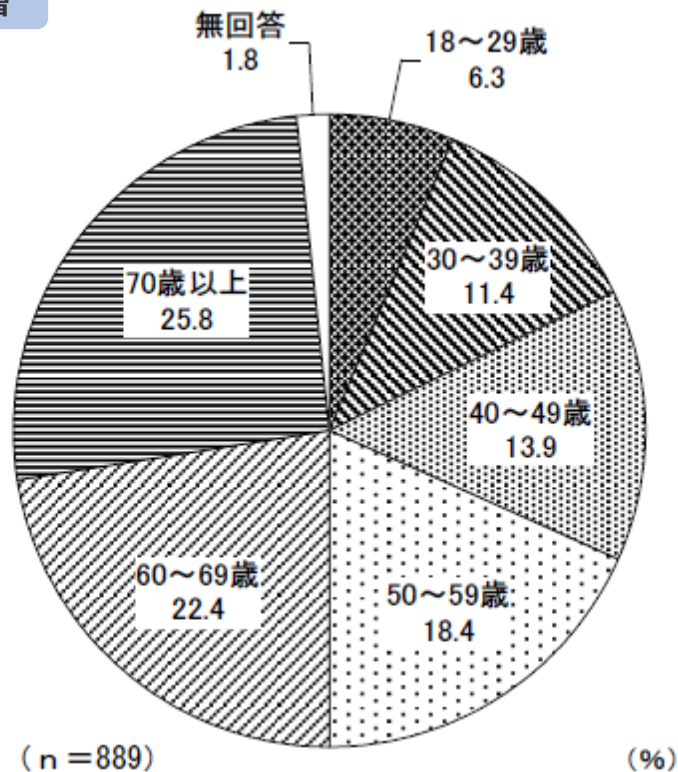
- ・基本計画の各節に「項」として配置している施策に計210の成果指標を設定しています。

令和6年度をもって後期基本計画の計画期間である5年間のうち3年目が終了したことを受けて、上記3段階の評価について分析を行い、計画の中間評価とします。

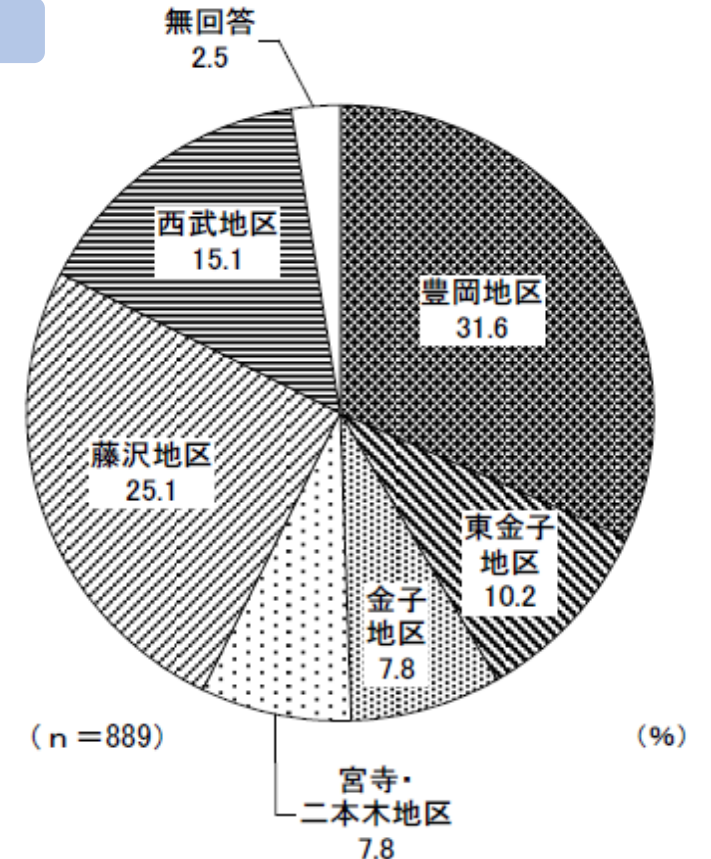
第14回 市民意識調査の概要

- 調査対象 入間市在住の満18歳以上の個人2,000人
- 調査期間 令和6年9月2日～9月24日
- 調査方法 郵送配布、郵送回収及びインターネット回答
- 回収数 890件（有効回答件数889件 うちインターネット回答339件）
- 回収率 44.5%

回答者の年齢層



回答者の居住地域



第1段階 計画の全体評価

① 住み良さ…「住みよい」、「どちらかといえば住みよい」を合わせた市民の割合

計画策定時の値	77.7%	第12回市民意識調査結果(令和元年度)
目標値	80.0%以上	計画終了時点:令和8年度末
令和6年度実績値	77.5%	第14回市民意識調査結果(令和6年度)

② 定住意向…「これからも住み続けたい」、「当分住んでいたい」を合わせた市民の割合

計画策定時の値	78.1%	第12回市民意識調査結果(令和元年度)
目標値	80.0%以上	計画終了時点:令和8年度末
令和6年度実績値	77.8%	第14回市民意識調査結果(令和6年度)

③ 行政サービスの満足度…調査項目における満足度の高い施策の割合
全44項目(計画策定時) ⇒ 全42項目(第13回調査～)

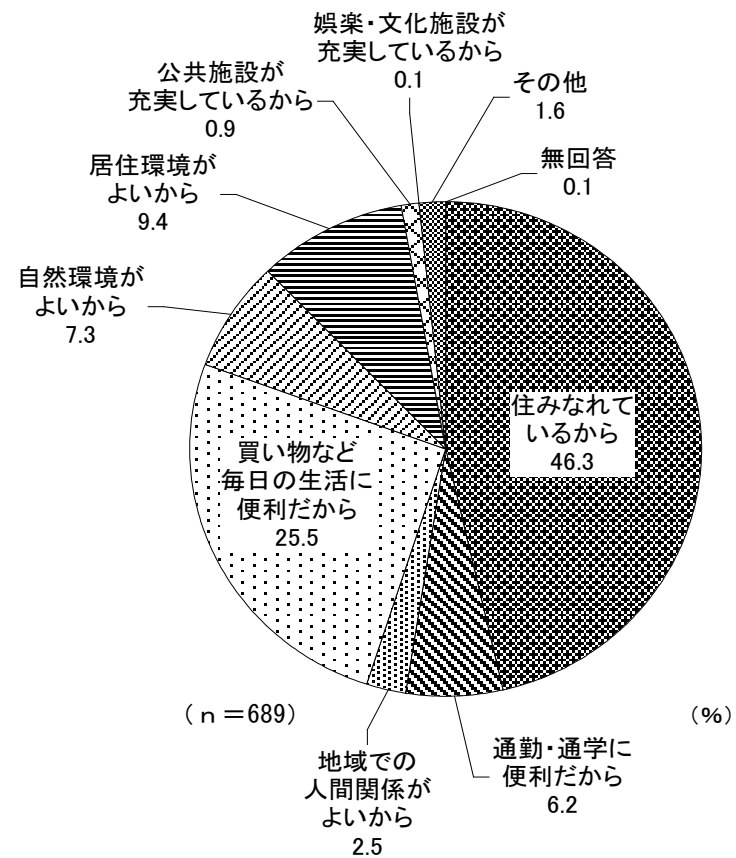
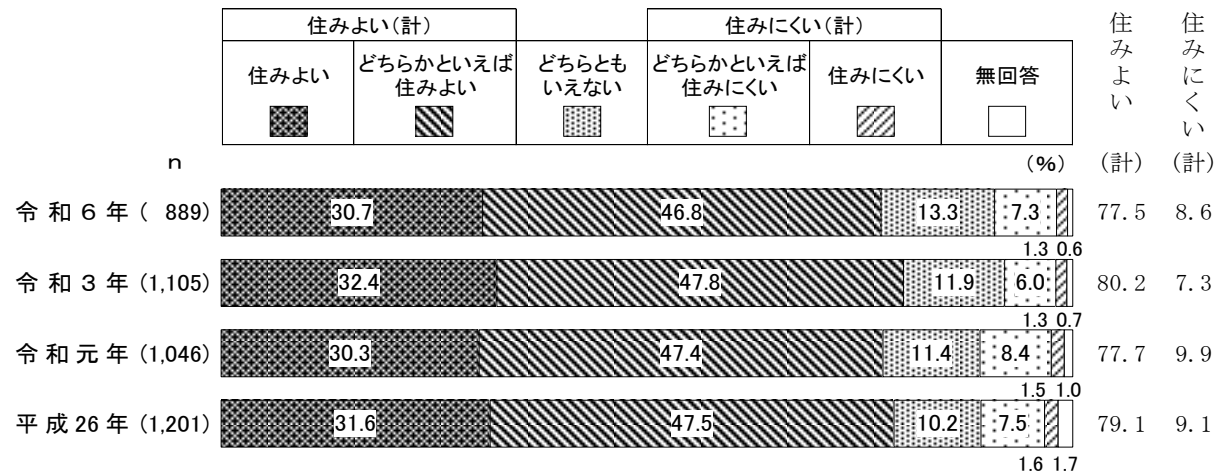
計画策定時の値	88.6%	39項目	第12回市民意識調査結果(令和元年度)
目標値	80.0%以上	36項目	計画終了時点:令和8年度末
令和6年度実績値	97.6%	41項目	第14回市民意識調査結果(令和6年度)

第1段階 計画の全体評価 ～住みよさの変化～

① 「住みよさ」の変化

「住みよさ」は過去の調査と比べても、**概ね横ばいで、高い数値を維持。**
 ⇒ **多くの市民に住みよいと感じていただいている結果**であり、これまで進めてきた市政運営を評価いただいているものと思われます。

住みよい理由としては、「**住みなれているから**」という理由が**46.3%**と最も多くなっています。また、「**買い物など毎日の生活に便利だから**」が25.5%、「**居住環境がよいから**」「**自然環境がよいから**」といった理由が続いており、市街地整備や自然環境保全の成果が「住みよさ」に影響を与えていることが読み取れます。



第1段階 計画の全体評価 ～住みよさの変化～

① 「住みよさ」の変化

住みにくい理由として上位に挙げられているのは以下の2項目です。

「買い物など毎日の生活に不便だから」・・・40.3% **「通勤・通学に不便だから」**・・・18.2%

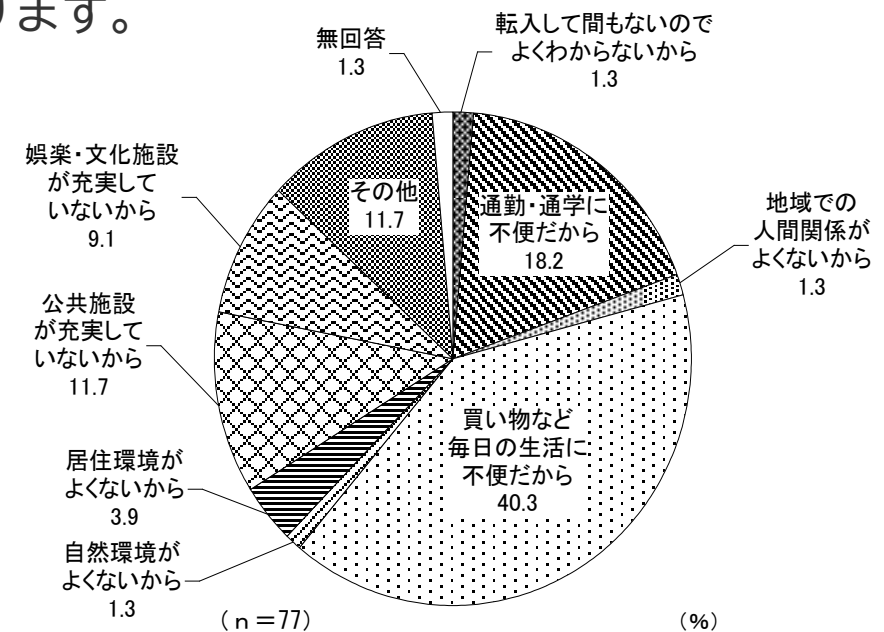
⇒金子地区に住んでいる方の61.5%、宮寺・二本木地区に住んでいる方の53.8%が買い物に不便と回答されています。

その解決に向けては狭山台公園パークPFI事業や公共交通の再編等の検討を進めていますが、未だ十分に応えられていないことが住みにくいと感じる要因の一つと考えられます。

また、豊岡地区についても、47.6%と高い数値です。これは単純に買い物をする施設がない、ということだけではなく、他市の駅前と比べての相対的な評価であるとも考えられます。

これまで高い数値ではなかったことから、**今後注視**する必要があります。

地区名	買い物等に不便だからと回答した人の割合
豊岡地区	47.6%
東金子地区	12.5%
金子地区	61.5%
宮寺・二本木地区	53.8%
藤沢地区	18.2%
西武地区	20.0%



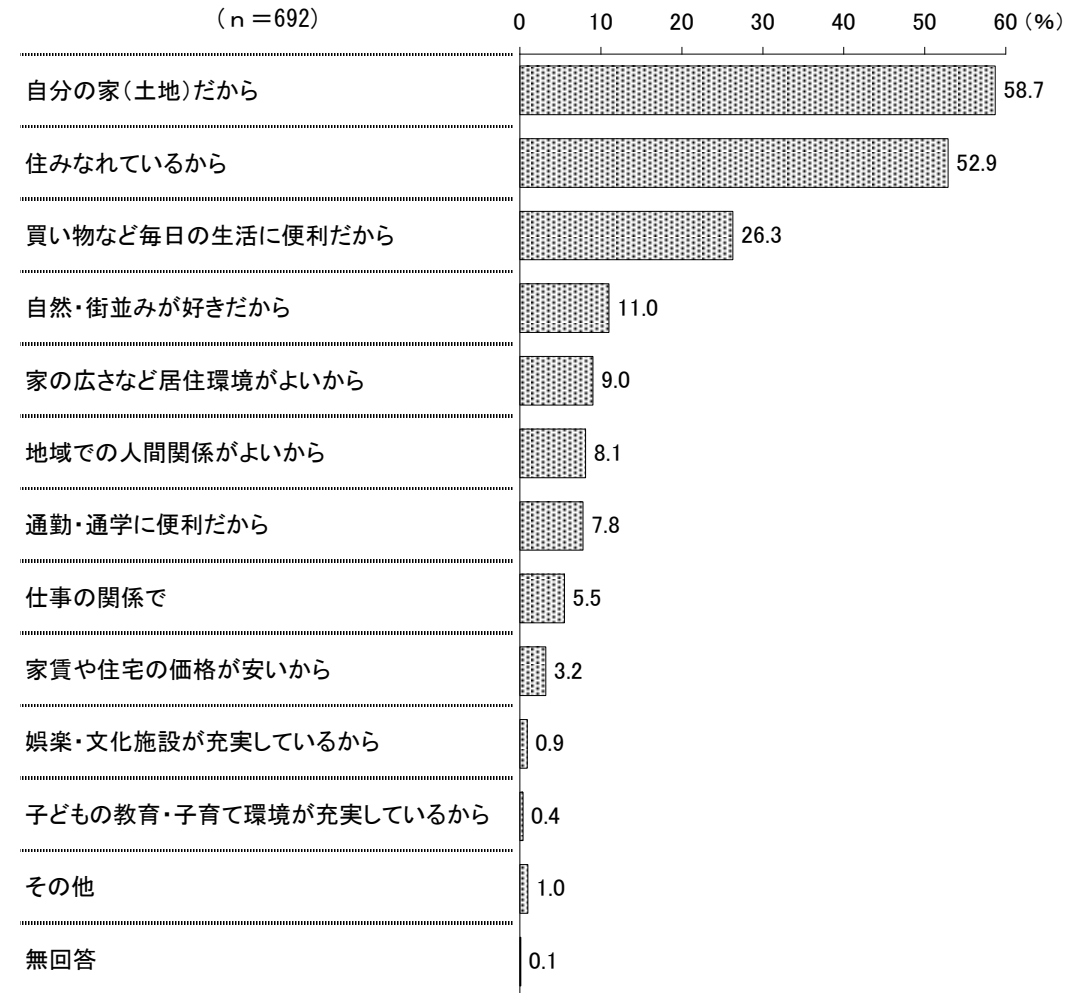
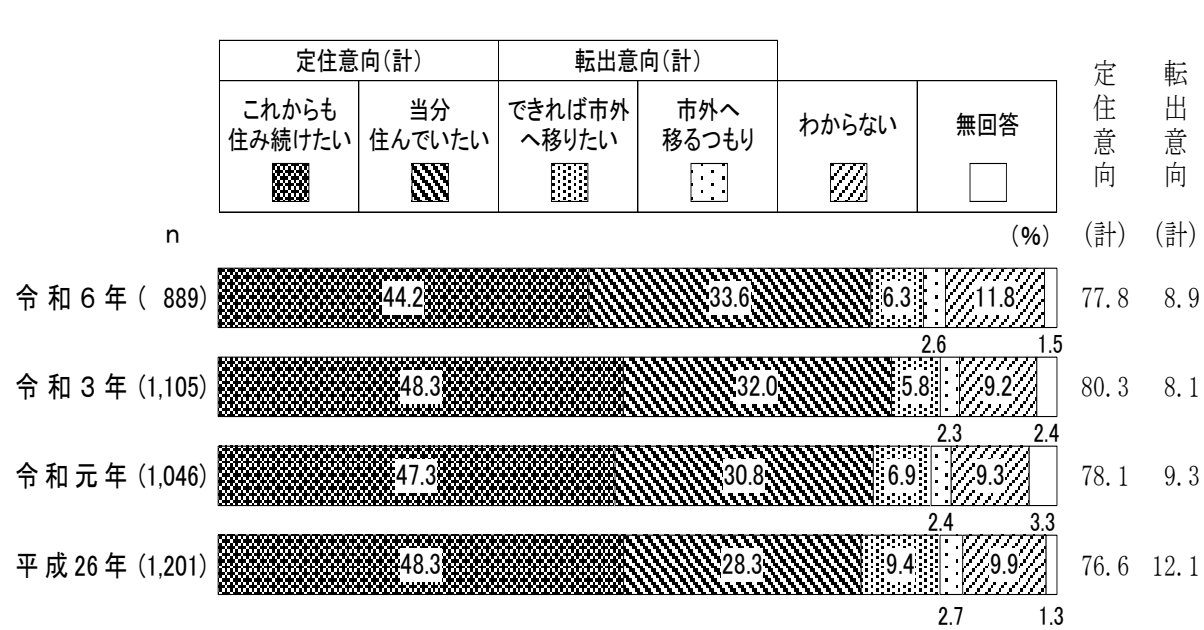
第1段階 計画の全体評価 ～定住意向の変化～

② 「定住意向」の変化

住みよさと同様、概ね横ばいで、高い数値を維持。

住み続けたい理由の上位は以下の2項目です。

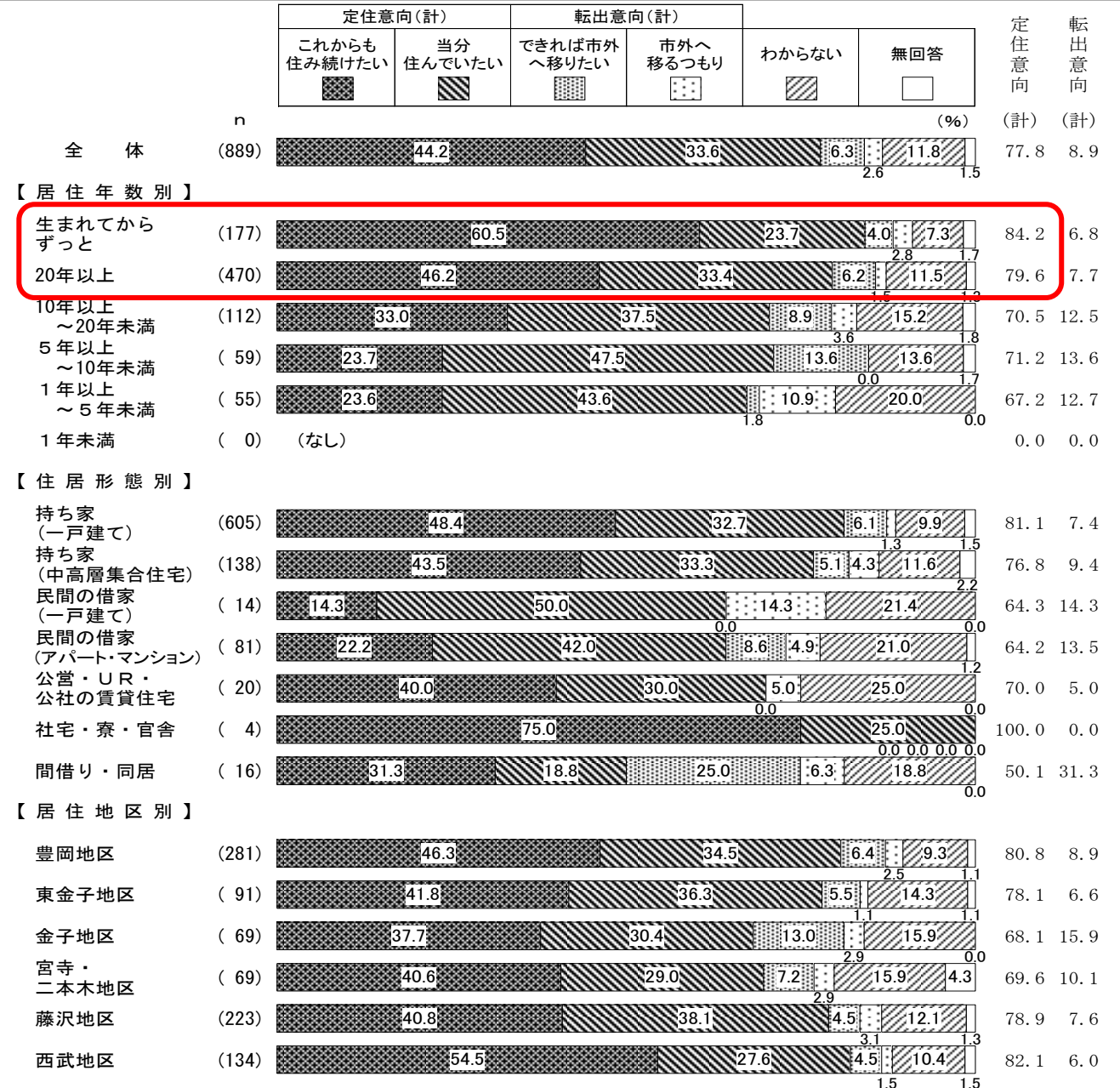
「自分の土地だから」・・・58.7%、「住みなれているから」・・・52.9%



第1段階 計画の全体評価 ～定住意向の変化～

② 「定住意向」の変化

- 居住年数別に見ても、「生まれてからずっと」入間市に住んでいる人の定住意向は84.2%と最も高く、「20年以上」が79.6%と次いで高い結果であることから、**住みよさが定住意向につながっている**ものと思われます。

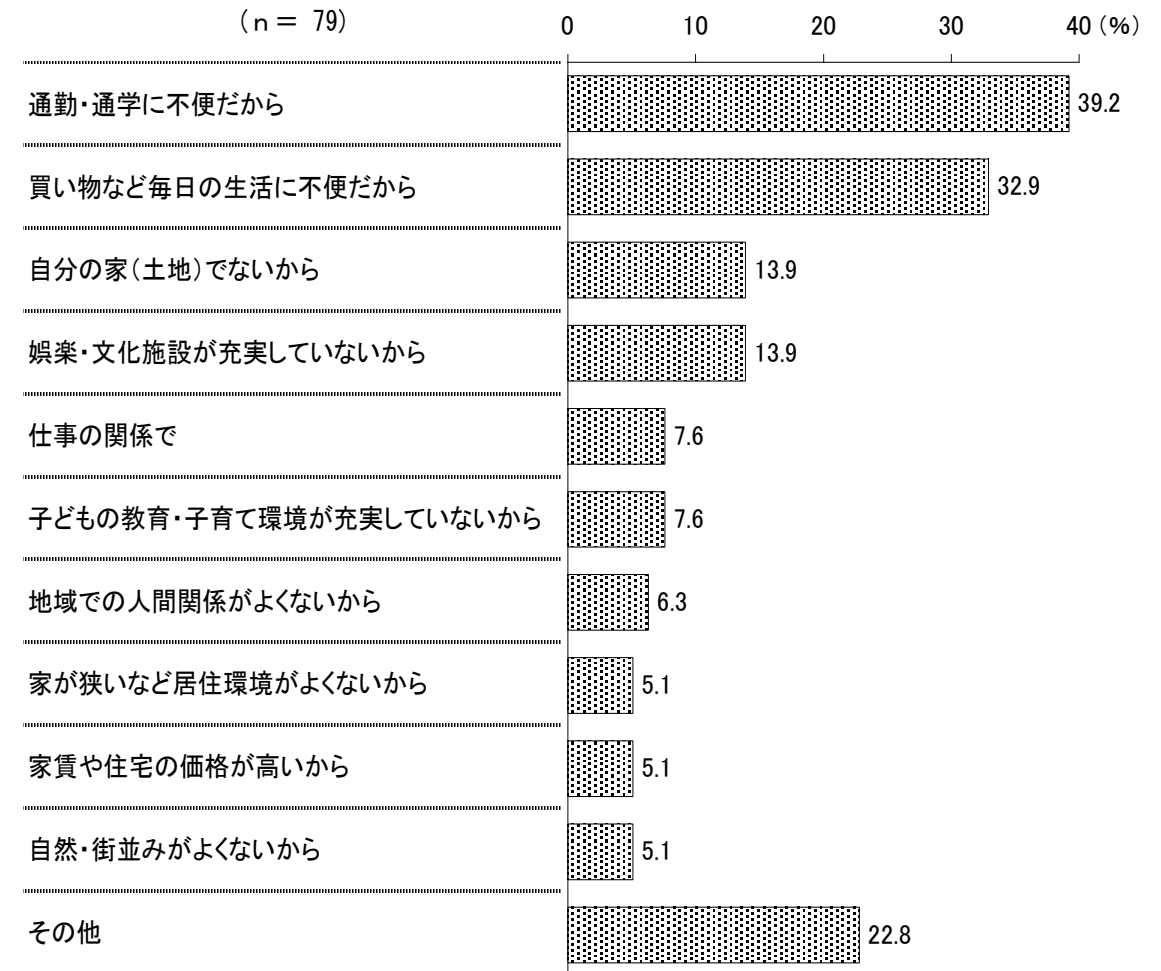


第1段階 計画の全体評価 ～定住意向の変化～

②「定住意向」の変化

市外に移りたい理由の最上位は「通勤・通学に不便だから」です。

- 12ページの「生活環境項目の満足度」においては、「鉄道利用の便と路線網」の評価が高く、「バス利用の便と路線網」の評価が唯一マイナス評価であるという結果が出ています。その結果から見ると、自宅から最寄り駅までの交通の便の悪さがその要因の一つになっているものと考えられます。



第1段階 計画の全体評価 ～行政サービスの満足度の変化～

③行政サービスの満足度の変化

【満足度の算出方法】

- 行政サービスの満足度については、以下に示す加重平均値を算出する方法で点数化しています。

とても満足:2点、やや満足:1点、どちらともいえない:0点、やや不満:-1点、非常に不満:-2点とし、項目ごとの回答結果を以下の計算式で算出

$$\frac{\text{「とても満足」の件数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の件数} \times 1 \text{点} + \text{「どちらともいえない」の件数} \times 0 \text{点} + \text{「やや不満」の件数} \times \text{マイナス}1 \text{点} + \text{「非常に不満」の件数} \times \text{マイナス}2 \text{点}}{\text{回答者件数} - \text{無回答件数}}$$

- この数値は2点から-2点の間で推移することになり、仮に回答者数が1,000人の場合には、0.1ポイント上昇させるには、100人が評価を1点上昇させなければならないこととなります。
- 算出している数値がマイナス値の場合は、「満足より不満足への回答が多い」ということになり、総合計画の評価において、行政サービスにおける満足度が低いと判断することとしています。

第1段階 計画の全体評価 ～行政サービスの満足度の変化～

③行政サービスの満足度の変化

- 満足よりも**不満足**が上回っている
(マイナス値)項目は**1項目のみ**であり、現状値(令和元年度)の5項目から**減っています**。
- 満足が不満足を上回っている項目は**41項目(97.6%)**となり、総合計画の**目標値である36項目(80%)以上を上回っています**。
- 過去2回からの推移を見ると、**平均値が上昇**しています。
⇒全体的な市政への満足度が上昇していると捉えられます。
- 一方で、**下落が続いている項目は、「文化施設や文化活動内容」**であり、市民会館閉館や高齢化等が影響していると考えられます。

【生活環境項目の満足度】

No.	項目名	R6年度		R3年度		R元年度
1	上水道	1.348	↑	1.303	↑	1.289
2	ごみ収集・処理	1.043	↑	0.939	↑	0.882
3	下水道整備	1.024	↓	1.036	↑	0.948
4	消防・救急施設や体制	0.647	↑	0.454	↓	0.463
5	保健予防体制	0.622	↑	0.545	↑	0.513
6	鉄道利用の便と路線網	0.594	↑	0.554	↑	0.523
7	市職員の対応	0.462	↑	0.43	↑	0.334
8	公園・緑地整備	0.462	↑	0.453	↑	0.44
9	図書館施設やサービス	0.449	↑	0.394	↑	0.376
10	日常生活の便利さ	0.375	↓	0.451	↑	0.404
11	地区センター施設やサービス	0.329	↑	0.297	↑	0.291
12	市役所の利用しやすさ	0.327	↓	0.333	↑	0.287
13	公害防止体制	0.314	↑	0.164	—	—
14	文化財保護	0.305	↑	0.222	↑	0.178
15	自然環境保全の推進	0.303	↑	0.253	↑	0.234
16	医療機関・医療体制	0.291	↑	0.231	↑	0.158
17	道路・道路網・橋の整備	0.263	↑	0.2	↑	0.182
18	河川整備	0.248	↑	0.141	↑	0.108
19	防災対策や体制	0.244	↑	0.148	↑	0.073
20	幼稚園整備・充足	0.242	↑	0.215	↑	0.144
21	交通安全施設	0.225	↑	0.116	↑	0.089
22	小・中学校施設や教育内容	0.206	↑	0.164	↑	0.111
23	子ども・子育て支援	0.204	↑	0.134	↑	0.046
24	博物館施設やサービス	0.2	↓	0.218	↑	0.197
25	文化施設や文化活動内容	0.198	↓	0.204	↓	0.243
26	駐車場・自転車置き場	0.188	↓	0.246	↑	0.125
27	地域の連帯感	0.188	↑	0.155	↑	0.146
28	障害者(児)福祉	0.18	↑	0.175	↑	0.123
29	社会教育活動・文化サークル活動	0.164	↑	0.154	↑	0.135
30	高齢者福祉	0.163	↑	0.152	↑	0.046
31	休日・夜間診療体制	0.153	↑	0.093	↑	0.09
32	コミュニティ活動への支援	0.147	↑	0.129	↓	0.145
33	防犯施設や体制	0.137	↑	0.099	↑	-0.026
34	市民協働のまちづくり	0.122	↑	0.101	↑	0.081
35	市街地整備	0.12	↑	0.083	↑	0.036
36	スポーツ・レクリエーション活動	0.118	↓	0.156	↑	0.096
37	ひとり親福祉	0.092	↑	0.062	↑	0.015
38	外国人市民への支援	0.071	↑	0.068	↑	0.025
39	就労のための機関や体制	0.055	↑	0.013	↑	-0.033
40	観光資源の活用と観光基盤の整備	0.048	↑	0.04	↑	-0.033
41	若者・子育て世代の定住支援	0.004	↓	0.027	↑	-0.002
42	バス利用の便と路線網	-0.08	↑	-0.101	↑	-0.158
	平均	0.305	↑	0.268	↑	0.218

第1段階 計画の全体評価 ～行政サービスの満足度の変化～

●総合計画の章立てと行政サービスの満足度との比較分析

12ページの生活環境項目の満足度を総合計画における施策の大綱別に分析。

【第1章 つながり大切にしまちづくり（人権、コミュニティ、交流）】

- 全体的に上昇傾向にあり、各施策における取組の成果が表れているものと推察されます。
- 特に、「コミュニティ活動への支援」が直近の調査で上向いているのは、地区センター化により、地域活動への支援がより充実したことによるものと推察されます。
※「地区センター施設やサービス」も上昇していることから読み取れます。

項目名	R6年度		R3年度		R元年度
地区センター施設やサービス	0.329	↑	0.297	↑	0.291
地域の連帯感	0.188	↑	0.155	↑	0.146
コミュニティ活動への支援	0.147	↑	0.129	↓	0.145
外国人市民への支援	0.071	↑	0.068	↑	0.025

地区センターを地域のまちづくりの推進拠点と位置づけ、コミュニティの活性化に取り組むとともに、多文化共生やダイバーシティの視点といった多様性を認め合うコミュニティの実現に向けて取り組んでいきます。

第1段階 計画の全体評価 ～行政サービスの満足度の変化～

【第2章 学びあいのまちづくり（生涯学習、教育、スポーツ）】

- 「小・中学校施設や教育内容」は上昇傾向にあり、学校教育における取組が評価されていると推察されます。
- 「博物館施設やサービス」や「スポーツ・レクリエーション活動」については直近では減少しているものの、現状値（令和元年度）からは上昇しています。また、「文化財の保護」については上昇傾向にあり、西洋館の活用や旧黒須銀行の復元修理工事といった市固有の文化財を保存・活用していく姿勢が評価されているものと推察されます。

項目名	R6年度		R3年度		R元年度
小・中学校施設や教育内容	0.206	↑	0.164	↑	0.111
図書館施設やサービス	0.449	↑	0.394	↑	0.376
博物館施設やサービス	0.2	↓	0.218	↑	0.197
文化財保護	0.305	↑	0.222	↑	0.178
社会教育活動・文化サークル活動	0.164	↑	0.154	↑	0.135
スポーツ・レクリエーション活動	0.118	↓	0.156	↑	0.096

学校施設については、学校統合や施設の老朽化に伴う修繕や改修工事等に計画的に取り組むことで、**快適な学習環境を整えていく**ことが必要です。また、生涯学習・スポーツについては、市民ニーズを的確に捉えて施策推進を図っていきます。

第1段階 計画の全体評価 ～行政サービスの満足度の変化～

【第3章 ささえあいのまちづくり（福祉、健康）】

- **こども支援・福祉・健康の各項目がいずれも上昇傾向**にあり、各施策の着実な取組が評価されていると推察されます。
- 特に「子ども・子育て支援」については、他と比べても現状値（令和元年度）から上昇率が高いことから、市民に寄り添い、かつニーズを捉えた施策展開が図られているものと推察されます。

項目名	R6年度		R3年度		R元年度
子ども・子育て支援	0.204	↑	0.134	↑	0.046
ひとり親福祉	0.092	↑	0.062	↑	0.015
幼稚園整備・充足	0.242	↑	0.215	↑	0.144
障害者（児）福祉	0.18	↑	0.175	↑	0.123
高齢者福祉	0.163	↑	0.152	↑	0.046
保健予防体制	0.622	↑	0.545	↑	0.513
医療機関・医療体制	0.291	↑	0.231	↑	0.158
休日・夜間診療体制	0.153	↑	0.093	↑	0.09

引き続き、市民ニーズを捉えた効果的な施策を展開するとともに、「子ども・子育て支援」については、こどもまんなかの視点に立った施策推進を図っていきます。

第1段階 計画の全体評価 ～行政サービスの満足度の変化～

【第4章 住みやすく緑豊かなまちづくり（都市環境、生活環境、自然環境）】

- 都市整備については全体的に評価が高く、上昇傾向です。
※「下水道整備」についても直近の調査では下がっているものの、現状値（令和元年度）からは上昇しており、全体項目のなかでも上位に位置しています。
- 項目毎の評価は高いものの、「日常生活の便利さ」は下がっており、かつ現状値を下回っています。これは住みにくいと思う項目として「買い物など毎日の生活に不便だから」が最上位だったことと関係していると推察されます。

項目名	R6年度		R3年度		R元年度
市街地整備	0.12	↑	0.083	↑	0.036
道路・道路網・橋の整備	0.263	↑	0.2	↑	0.182
上水道	1.348	↑	1.303	↑	1.289
下水道整備	1.024	↓	1.036	↑	0.948
公園・緑地整備	0.462	↑	0.453	↑	0.44
河川整備	0.248	↑	0.141	↑	0.108
ごみ収集・処理	1.043	↑	0.939	↑	0.882
鉄道利用の便と路線網	0.594	↑	0.554	↑	0.523
バス利用の便と路線網	-0.08	↑	-0.101	↑	-0.158
日常生活の便利さ	0.375	↓	0.451	↑	0.404
公害防止体制	0.314	↑	0.164	—	—
自然環境保全の推進	0.303	↑	0.253	↑	0.234
若者・子育て世代の定住支援	0.004	↓	0.027	↑	-0.002

本章に基づく施策は「住みやすさ」や「定住」に大きく影響します。今後はインフラ施設の老朽化に伴う改修や修繕の必要性も高まることから、計画的な施策展開を図っていきます。

第1段階 計画の全体評価 ～行政サービスの満足度の変化～

【第5章 活気に満ちたまちづくり（産業、観光、市民文化）】

- 4項目のうち、「市民協働のまちづくり」、「観光資源の活用と観光基盤の整備」、「就労のための機関や体制」は上昇傾向です。
- 特に「観光資源の活用と観光基盤の整備」、「就労のための機関や体制」については、現状値（令和元年度）がマイナス値であったものがプラス値になっています（否定的な意見から肯定的な意見が多くなっている）。これは、観光については「茶畑テラス」に代表される観光資源の創出・活用やそのPRが効果的であったと捉えられ、就労についてはハローワークと連携して就職支援セミナー等に取り組んでいることが効果的であったと捉えられます。
- 下落が続いている項目は「文化施設や文化活動内容」であり、市民会館閉館や高齢化等が影響していると考えられます。（再掲）

項目名	R6年度		R3年度		R元年度
市民協働のまちづくり	0.122	↑	0.101	↑	0.081
観光資源の活用と観光基盤の整備	0.048	↑	0.04	↑	-0.033
就労のための機関や体制	0.055	↑	0.013	↑	-0.033
文化施設や文化活動内容	0.198	↓	0.204	↓	0.243

引き続き、市民との協働のまちづくりを進めるとともに、本市の魅力を市内外に発信していくことで、観光振興を図り、郷土愛の醸成にもつなげていくことができるように取り組んでいきます。また、市民文化やその活動を支援する取組を継続していきます。

第1段階 計画の全体評価 ～行政サービスの満足度の変化～

【第6章 安全で安心してらせるまちづくり（危機管理、交通安全、生活安全）】

- **防災・防犯に関する項目は上昇**傾向にあります。実践的な防災訓練の実施や危機管理幹の配置、防災アドバイザー及び気象アドバイザーの委嘱といった**危機管理体制の充実が、結果に表れている**ものと考えられます。
- 「駐車場・自転車置き場」については、現状値（令和元年度）よりは上回っているものの、前回調査時から減少しています。これは自転車を活用したまちづくりを進めるなかで、施設や環境整備がニーズに追いついていないことも要因のひとつと推察されます。

項目名	R6年度		R3年度		R元年度
防災対策や体制	0.244	↑	0.148	↑	0.073
防犯施設や体制	0.137	↑	0.099	↑	-0.026
交通安全施設	0.225	↑	0.116	↑	0.089
消防・救急施設や体制	0.647	↑	0.454	↓	0.463
駐車場・自転車置き場	0.188	↓	0.246	↑	0.125

「自助」、「共助」、「公助」の考えのもと、有事の際に実態に応じた対応ができるよう体制構築に努めていきます。また、自転車の活用については、環境面や健康面も踏まえた横断的な取組として施策推進を図るとともに、その環境整備についても検討していきます。

第2段階政策評価と第3段階施策評価の評価方法について

●施策体系別評価項目の評価結果及び達成率について

- ・次ページ以降に示す達成率の集計表は、評価区分ごとに達成率を設定し、達成率計算式により算出しています。
- ※「第3段階 施策評価（アウトプット指標）」においても同様です。

評価区分	目標達成状況	達成率
A	目標値達成	100%
B	計画策定時（R1）の値より目標に近づいているもの	75%
C	計画策定時（R1）の値を維持しているもの	50%
D	計画策定時（R1）の値より数値が下がったもの	25%
E	新規の取り組みでまだ実施できていないもの	0%
-	評価をすることができないもの（※）	達成率の計算に含めず

- ※ 次の理由により、評価の対象から外しているものです。
- ・ 指標中の事業を実施していない。

◆達成率計算式

達成率＝	$\frac{(\text{「A」の数} \times 100\%) + (\text{「B」の数} \times 75\%) + (\text{「C」の数} \times 50\%) + (\text{「D」の数} \times 25\%)}{\text{評価項目数} - \text{評価をすることができない項目数 (評価区分の「-」)}} \times 100$
------	--

第2段階 政策評価(アウトカム指標)

(1)各章ごとの評価結果及び達成率

- 各章ごとに設定した政策評価に係る評価項目数と評価結果及び達成率について、次の表に示します。

章の名称 (大綱名称)	評価結果						項目数	達成率
	A	B	C	D	E	—	合計	
第1章	1	5	4	2	0	0	12	60.4%
第2章	4	3	2	0	0	0	9	80.6%
第3章	8	2	0	4	0	0	14	75.0%
第4章	9	5	2	0	0	0	16	85.9%
第5章	6	0	0	4	0	0	10	70.0%
第6章	4	0	0	1	0	0	5	85.0%
計画の実現に向けて	7	4	0	0	0	0	11	90.9%
計	39	19	8	11	0	0	77	77.9%

- 全体の**達成率は77.9%と高い数値**であることから、各施策に取り組んだことで市民満足度などが上向き、「住みよさ」や「定住意向」の維持につながっているものと捉えられます。
- 「第1章 つながりを大切にしまちづくり」については、他章と比べ、達成率が低くなっています(60.4%)。
- 第1章を具体的に見てみると、「自治会や町内会などの地域活動に参加している市民の割合」といった項目が減少しています。今後は自治会のICT活用支援等を行い、**自治会の負担感の軽減を図ることで、地域コミュニティの活性化につなげていく**必要があります。

第3段階 施策評価(アウトプット指標)

(1)各章ごとの評価結果及び達成率

- 各章ごとに設定した施策評価に係る評価項目数と評価結果及び達成率について、次の表に示します。

章の名称 (大綱名称)	評価結果						項目数	達成率
	A	B	C	D	E	—	合計	
第1章	7	1	1	13	0	0	22	52.3%
第2章	11	12	0	13	0	0	36	64.6%
第3章	14	9	1	7	1	0	32	71.9%
第4章	11	14	5	8	0	0	38	68.4%
第5章	12	5	0	6	0	1	24	75.0%
第6章	12	5	1	5	0	0	23	76.1%
計画の実現に向けて	16	7	2	9	1	0	35	70.0%
計	83	53	10	61	2	1	210	68.4%

- 全体の**達成率は68.4%**であり、また、進捗が図られている項目数も136（評価「A」及び「B」の合計数）と半数を超えていることから、中間年として、**各施策を着実に推進している**と捉えられます。
- 全体的に**政策評価に比べて達成率は低く**、その中でも「第1章 つながりを大切にしまちづくり」及び「第2章 学びあいのまちづくり」については、達成率が低い状況です。
- この2つの章における指標を具体的に見てみると、事業の実施回数や参加者数を指標にしているものがあり、これらは、感染症の感染拡大防止の観点から、事業内容の変更や参加者数の見直し等を行っていることが影響していると考えられます。
- 第1章においては、「国際交流・支援に参加したいボランティアの割合」や「ヴォルフラーツハウゼン市との青少年交流事業への応募者数」といった指標が低いことから、行政サービスの満足度でも触れているとおり、**ダイバーシティの視点に基づいた取組を進めることで、多文化共生の推進を図っていきます。**

まとめ

■全体を通じた評価及び分析

- 全体評価としている「**住みよさ**」、「**定住意向**」、「**行政サービスの満足度**」においては、**高い数値を維持できていることから、計画期間における各施策の取組がある程度評価されたものである**と捉えられます。
- 一方で、**政策評価**や**施策評価**は、コロナ禍以前の数値を現状値としていることや、計画策定後に生じた社会情勢の変化等により事業内容を見直している影響もあり、**KPIの達成状況が低い指標も見られます**。KPIの達成を目指していくことはもちろんですが、必ずしもコロナ禍以前と同じ取組内容での目的達成を目指すのではなく、**アフターコロナや変化する社会情勢に対応した形で、解決すべき課題に向けて取り組むことが重要**だと捉えています。そういった意味では、全体評価が高水準を維持できていることは、その方針に基づいた取組が評価されているものと推察されます。



■今後の計画推進に向けて

- 第6次入間市総合計画の目標「**みんなでつくる 住みやすさが実感できるまち いるま**」を実現するには、今回の評価の結果を踏まえるとともに、計画における課題として捉えている**人口減少対策、行政改革、デジタルトランスフォーメーション、SDGs、公共施設マネジメント**等に係る取組を推進し、**政策、施策を実施していくことが求められます**。また、「**こどもまんなか**」の視点といった計画策定後に見られる動向にも注視し、取組を推進していく必要があります。そうしたことから、**政策・施策推進にあたっては、これまでの市民との協働に加え、官民連携や共創の取組を進める**ことで、様々な課題解決を図りながら市政を推進していく必要があります。
- 今回の評価結果は**後期基本計画における今後の取組の参考**にするほか、令和9年度からを計画期間とする**次期入間市総合計画策定のための基礎資料**としても活用を図っていきます。